

現代・和室の会を設立

魅力と文化を研究、再興



内田会長

社会から姿を消しつつある和室、その空間的魅力と和室にまつわる生活文化を研究・発信する「現代・和室の会」が設立された。3月26日に東京都文京区で開いた設立総会に出席した発起人など関係者約50人は、活動目的や基本方針、和室文化の再興に向けて一致団結していくことを確認した。写真。

和室の会は、日本建築学会建築計画委員会の「日本建築和室の世界遺産的価値WG(ワーキンググループ)」（主査・松村秀一 早大理工学術院総合研究所・研究院教授）の活動から誕生した。WGでは住宅建築の中で和室の採用率が急減している現状を踏まえて、「和室

の再発見と新生への道を探ってきた。食事や睡眠、接客・宴会、節句の行事など多様な役割を持つ和室を守ることは、伝統文化や和室づくりに携わってきた伝統技術や技能者を守ることもつながることから、学識経験者や和室に関わる設計者、施工者に限らず、技能者、畳や建具製作に携わる多くの人とともに活動を進める方針だ。最終的には、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産への登録を目指す。

同日の会合では、内田青蔵神奈川大特任教授を会長とするほか、副会長、常任幹事、幹事などの役員構成も決めた。松村教授と学会WGの幹事を務めた服部岑生千葉大名誉教授が顧問に就く。

内田教授は「近年、和室を巡る問題が生じてきた中で、改めて戦後の建築家などが提案してきた和室にもう一度着目し、どのような和室をつくらうとしてきたのか、あるいは伝統性というものをどのように継承していく」としてきたのか。数多くの試みを改めて検証し、新しい未来に向けた和室の提案を研究する必要がある」と語った。

同会活動に関連して、ワタリウム美術館が4月から9月までレクチャーシリーズ+見学会「新・和室学2024」を開く。全4回のレクチャーには松村・服部の両氏や内田会長らが登壇し、鎌倉・旧山本条太郎邸+旧田島屋材木店の見学会を交えて和室の魅力を再発見する。

